

北朝鮮による「地下核実験」に抗議する声明

5月25日午前、北朝鮮の『朝鮮中央通信』は「自衛的核抑止力を強化するための措置の一環として、25日に地下核実験を成功裡に実施した」と北朝鮮が発表したことを報じた。北朝鮮による核実験は、2006年10月9日に実施して以来2度目の実験である。

今回の北朝鮮の核実験実施の背景には、困窮する国内経済からの脱却や、6カ国協議を巡る対立と外交的意図があると言われている。北朝鮮は「自衛的核抑止力」と主張しているが、いかなる理由があろうとも「核実験」を強行する行為と、核の脅威によって問題を解決しようとするやり方は絶対に許されるものではない。

4月5日にアメリカ・オバマ大統領が、プラハの地において「核兵器廃絶」に向けた演説を行なったばかりである。今回の核実験は、東アジア地域に新たな緊張と不安を作り出し、2010年NPT（核拡散防止条約）再検討など世界的な「核廃絶」に向けた流れに対し逆行するものであり、国際社会への挑戦である。

世界で唯一の被爆国であり平和憲法を持つ日本がやるべき事は、地球上からの核廃絶を強力にアピールすることである。真の平和な世界を作るために、核兵器は無用である。高齢になられた広島・長崎の被爆者の方たちは、今なお「被爆後遺症」に苦しみ、「心の傷」をも抱えている。被爆者の方たちの傷が癒えるのは「核兵器」を地球上から廃絶させることである。そして「核兵器が人類を滅亡させるのか」「人類が核兵器を滅亡させるのか」が、今世界人類に問われている。

JR総連は、北朝鮮の核開発、核実験に対し厳重に抗議するとともに、あらゆる国の核保有、核開発に断固反対するものである。平和を希求する全ての市民団体、労働組合が一大結集することを訴える。

2009年5月26日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）